

# 【受電設備】 電力計測によるデマンドの削減



## 取組の概要

- 電力を高圧受電している施設(キュービクルが設置されている施設)で実施可能な取組です。ただし、年間を通してデマンドの変動が少ない施設では効果が限定的です。
- デマンドとは、電力会社が 30 分間単位で計測している電気使用量の平均値のことで、過去 1 年間のうち最も高いデマンド(最大需要電力)を元に、基本料金が決まる仕組みになっています(単位は kW)。電力計測によって原因を特定し、期間限定のピークカット対策を行うことで、年間を通した電気料金の削減につながります。

## 取組のポイント

- キュービクルや分電盤に電力計測器を設置し、デマンドの推移を記録します(簡易電力計測器は浜松市で貸出可能)。電力会社の請求書に月ごとの最大需要電力が記載されていますので、合わせて確認しましょう。
- デマンドの記録から、デマンド上昇の原因を特定できれば、デマンド削減の可能性が高まります。



## デマンド削減の方法

- 営業開始後すぐに最大を記録する場合は、空調機の立ち上げ時の負荷が影響していると考えられますので、複数台ある空調機の起動時間を 1 台ずつずらすのが有効です。また、日中に短時間だけデマンドが上昇している場合は、消費電力の大きい電気機器をその時間に稼働したと考えられますので、他の時間に運転をシフトできないか検討しましょう。デマンド上昇の原因によって、対策は様々です。省エネの専門家のアドバイスを聞いてみるのも有効です。

## 実施効果

- デマンド 1kW あたりの基本料金は年間で 1 万 6 千円 ~ 1 万 8 千円程度のため、デマンド対策で 10kW 削減 できれば年間 16 万円の電気料金節減 となります。